

おっぱい通信

2020.臨時号

新型コロナウイルスと母乳育児について

名古屋市内においても新型コロナウイルスの感染が広がりつつあり、みなさまにおかれましても、その感染予防対策をなさっていることと存じます。母乳育児について、日本小児科学会・日本新生児生育医学会・日本産婦人科学会の見解をご紹介します。

日本小児科学会 新型コロナウイルス感染症に関する Q&A（2020 年 3 月 23 日現在）

母親が新型コロナウイルスに感染している場合は、接触や咳を介してお子さんが感染するリスクがありますので、**直接の授乳は避ける必要**があります。母乳自体の安全性については現時点では明らかではありませんが、中国からの報告では、感染した女性 6 名の母乳を調べたところウイルスは検出されなかったと報告されています。従って、**母親が解熱し状態が安定**していれば、手洗い等を行った上で搾乳により母乳を与えることは可能と思われます。

日本新生児生育医学会 新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について （2020 年 3 月 23 日 第3版）

母親が感染症状を呈している場合は、接触や飛沫を介して児が感染するリスクがあるため、現時点においては、**直接授乳は避ける**ことが望ましい。ただし、母乳はできるだけ搾乳し、児に与える。いつから直接授乳のための母子接触が可能か明確な基準はなく設けることができないが、**母親の症状が消失**し、感染のリスクが低くなったと判断された時から行うことを勧める。

日本産婦人科学会 妊婦・産褥婦の新型コロナウイルスの感染予防策について（2020 年 2 月 6 日）

コロナウイルス感染が確定し発熱を認める産褥婦においては母体がウイルス血症となっていることが考えられ、**授乳は控える**よう指導する。**授乳開始は解熱後 4 日目を目安**とする。（ただし今後の解明によって上記の日には変更されうる）

今まで行っていた授乳をやめると胸が張って辛くなったり、母乳分泌量の低下につながる恐れがあります。その間も母乳分泌を維持するために搾乳をおこないましょう。搾乳をする時は、手洗い・マスクを着用し、使用した搾乳器の消毒を十分に行いましょう。



直接授乳の再開の時期は、母親の症状に合わせて医師と相談しましょう。

母乳育児に関してご心配なことがございましたら、お問い合わせください

問い合わせ先：西部医療センター 育児支援委員会

住所：名古屋市北区平手町 1-1-1

電話：052-991-8121（代表）FAX：052-916-2038（代表）

